

青森県埋蔵文化財調査報告書 第231集

平野遺跡 今須(4)遺跡

— 県営中山間整備事業に伴う試掘調査報告書 —

1998年3月

青森県教育委員会

例 言

- 1 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが平成8年度に試掘調査した県営中山間地域整備事業に伴う鱒ヶ沢町平野・今須（4）遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 今回の試掘調査は、平野・今須（4）遺跡及び餅ノ沢遺跡の三遺跡が対象であった。このうち、餅ノ沢遺跡については、平成9年度に発掘調査が実施されたため、本報告書から除いている。なお、餅ノ沢遺跡の出土遺物についても、その報告書に掲載する予定である。
- 3 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集作成した。
- 4 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、写真の縮尺は不同である。
- 5 土層等の色調観察には、1994版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」（小山正忠・竹原秀雄;1994）を使用した。
- 6 本報告書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を複写して使用した。
- 7 試掘調査における遺物の出土総量は、段ボール箱で1箱であった。それらの出土遺物・実測図・写真等は、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

例言

第1章 調査要項と調査経過、調査方法	1
第1節 調査要項	1
第2節 調査方法	2
第3節 遺跡の層序	2
第2章 平野遺跡	5
第4章 今須（4）遺跡	8
第5章 まとめ	9

写真図版

報告書抄録



図1 遺跡位置図

第1章 調査要項と調査方法、遺跡の層序

第1節 調査要項

1 調査目的

県営中山間地域整備事業の実施に先立ち、当該地区に所在する鱒ヶ沢町平野・今須（4）遺跡の試掘調査を行い、遺跡の範囲を確認し、文化財保護と保存を図る資料を作成する。

2 発掘調査期間

平成8年9月16日から10月25日まで

3 遺跡名及び所在地

(1) 平野遺跡（県登録番号15-039） 西津軽郡鱒ヶ沢町大字北浮田町平野91-7～15、外

(2) 今須（4）遺跡（県登録番号15-038） 西津軽郡鱒ヶ沢町大字北浮田町字今須100、外

4 調査対象面積

4,900平方メートル

(1) 平野遺跡 3,080平方メートル

(2) 今須（4）遺跡 1,820平方メートル

5 調査委託者 青森県農林部農村振興課

6 調査受託者 青森県教育委員会

7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関 鱒ヶ沢町、鱒ヶ沢町教育委員会、西北教育事務所

9 調査参加者

調査指導員 村越 潔 青森大学考古学研究所所長（考古学）

調査協力員 兼平 瑞夫 鱒ヶ沢町教育委員会教育長

調査員 高島 成侑 八戸工業大学教授（建築史）

葛西 励 青森短期大学助教授（考古学）

山口 義伸 青森県立板柳高等学校教諭（地質学）

調査担当者

総括主幹、調査第二課長 鈴木 克彦

主幹 畠山 昇

主事 赤羽真由美

調査補助員 佐藤 理、尾崎智恵子、濱田 恵、川村 真史

第2節 調査方法

平野遺跡と今須(4)遺跡は、日本海に面した七里長浜後背地の標高約30mの台地上にあり、岩木山麓北側から日本海へと流れる鳴沢川右岸の河岸段丘上に位置している。両遺跡の北側には国道101号線が走り、南側には鳴沢川に面した小谷が発達している。

今回の試掘調査の原因となる開発事業は、平野遺跡と今須(4)遺跡とを東西に横切っている既存農道を拡幅する農道整備事業であり、調査対象区域は既存農道(おおむね幅員3.5m)とその両側の畑地(スイカ、メロン、長芋等の栽培が行われている)で、延長1,015m、幅員8mの帯状の区域である。また、今回の調査は既存農道の通行を確保しながら行う必要があった。このため、試掘トレンチは既存農道を挟んで設定することとし、2×4mを基本とした大きさのものを10~20m間隔で設定した。トレンチの番号は平野遺跡の東端(国道101号線に近いほう)から今須(4)遺跡の方に向かって算用数字を付した。試掘トレンチでの調査は、分層発掘を基本として調査を行った。遺構・遺物が多数検出された場合は、本発掘調査に委ねるつもりであったが、結果として住居跡1軒のみの検出であったため完掘した。なお、住居跡の調査においても、通行を確保して行う必要があったため、農道を二分して片側ずつの調査を行った。

第3節 遺跡の層序(図2)

第I層 黒褐色土 10YR2/3 表土。耕作土。

第II層 黒色土 10YR2/3 粘性、湿性ともにあり、いくぶん腐植質である。全体に軟らかで、ローム粒、軽石等を多少含んでいる。

第III層 暗褐色土 10YR3/3~黒褐色土 10YR2/3 全体に軟らかで、白頭山火山灰を含んでいる。

第IV層 黒褐色土 10YR3/2~暗褐色土 10YR3/3 粘性、湿性ともにあり、ややしまりに欠けている。漸移層であり、a・bの二つに分けられる。

IV a層は黒褐色を呈し、腐植質である。

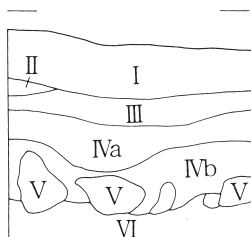
IV b層は下位のV層(軽石層)が、ブロック状あるいは粒子状に含まれる。

第V層 明褐色土 10YR6/8 いわゆる千曳浮石層に相当する層。緻密で堅固である。細粒軽石(細粒火山灰)質で、ところどころ径1~2cm大の軽石も含まれる。

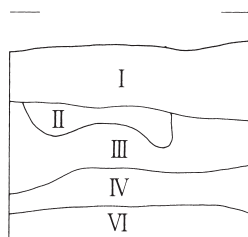
第VI層 橙色ローム 7.5YR6/6 いわゆるハードローム層。粘土質で、最上部は乾くとクラックが発達する。

一般に、耕作によりIV層まで削平されているところや、長芋栽培のためのトレンチャーによってVI層まで、攪乱を受けているところも多数見られた。

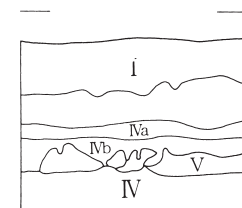
平野遺跡35トレンチ



今須(4)遺跡52トレンチ



今須(4)遺跡64トレンチ



今須(4)遺跡84トレンチ

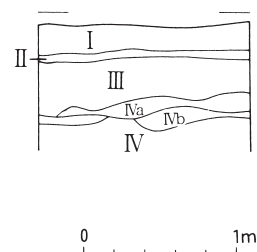


図2 遺跡位置図

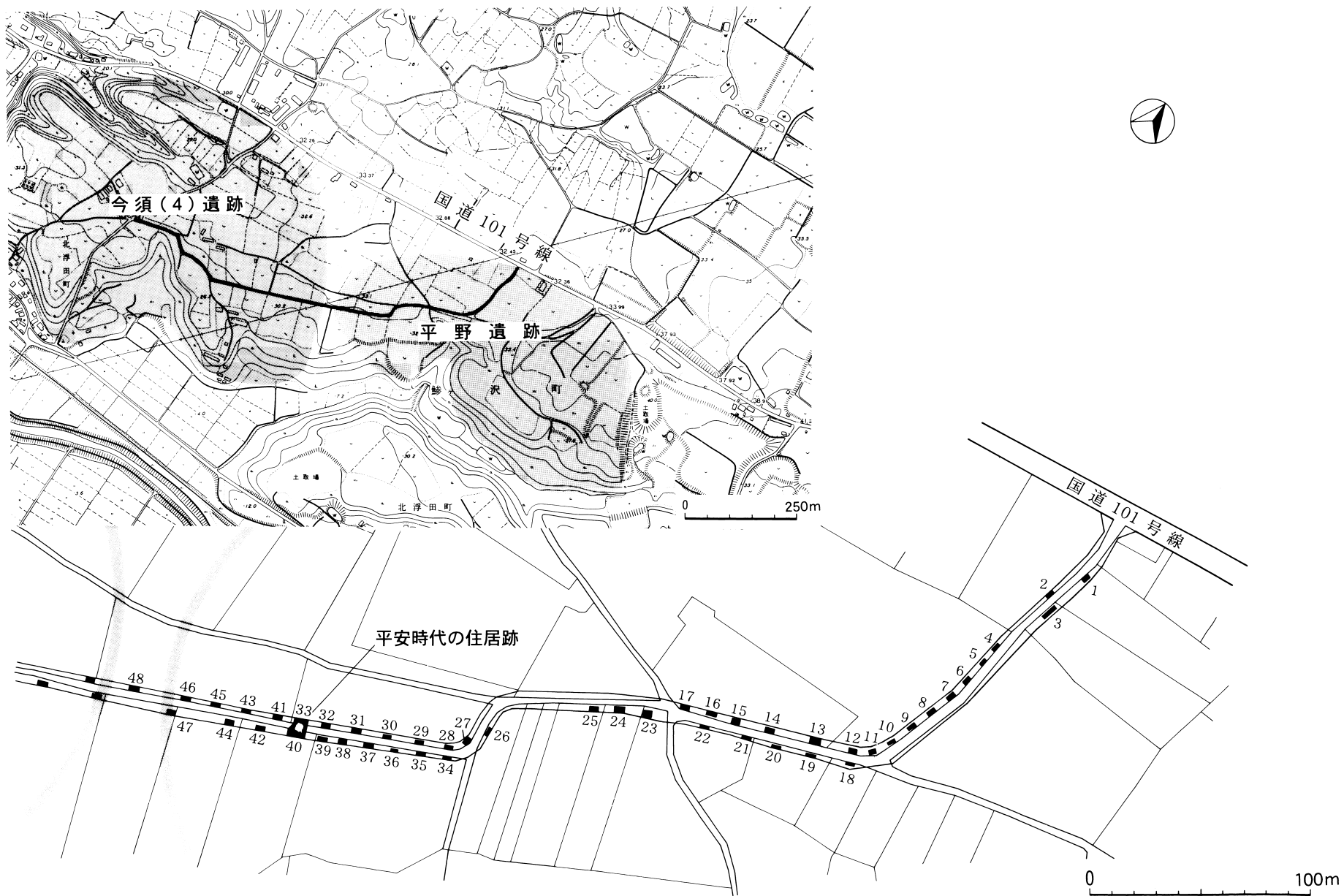


図3 平野遺跡トレンチ配置図



図4 今須(4)遺跡トレンチ配置図

第2章 平野遺跡

今回の調査では、33・44トレンチから竪穴住居跡1軒（第1号住居跡として調査）と、他のトレンチから少量の遺物が出土した。

1 検出遺構

第1号住居跡（図6）

[位置] 33・40トレンチにわたっている。

[平面形・規模] 平面形は長方形で、規模は東・西壁が3.8m前後、南・北壁が3.3～3.4m前後で、推定床面積は、11.8㎡である。主軸方位はN-110°-Wである。

[壁・床面] 壁高は表土から1m5cm、確認面から50cm前後である。床面は全般に平坦で堅緻である。

[カマド] 東壁辺の南寄りに構築されており、カマドの残存状況は良好である。カマド本体は板状の礫（砂岩）を横にして立て、白色ないしは黄褐色の粘土で補強して構築されている。カマドの内壁の幅は44cmほどである。燃焼部はよく焼けており、40×45cmの楕円形状の酸化面を形成している。燃焼部奥に支脚が設置され、この上部に土師器甕破片を重ねている。

煙道部は半地下式で、壁辺から128cm外方へ延びる。長芋の作付けの時に使用するトレンチャーで破壊されている部分が多い。

[壁溝] 壁溝は西・南壁に検出し、幅15～20cm、深さ5～10cmである。

[柱穴・ピット] カマドの周辺から4個のピットを確認したが、柱穴と思われるものは検出出来なかった。

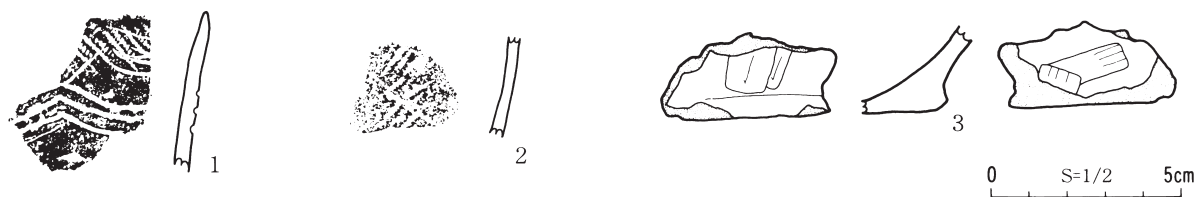
[堆積土] 自然堆積の状況を呈し、覆土中に白頭山火山灰を含んでいる。

[出土遺物] カマド周辺から若干の遺物が出土した。

[時期] 白頭山火山灰の堆積状態から判断して、9世紀後半から10世紀初頭頃と思われる。

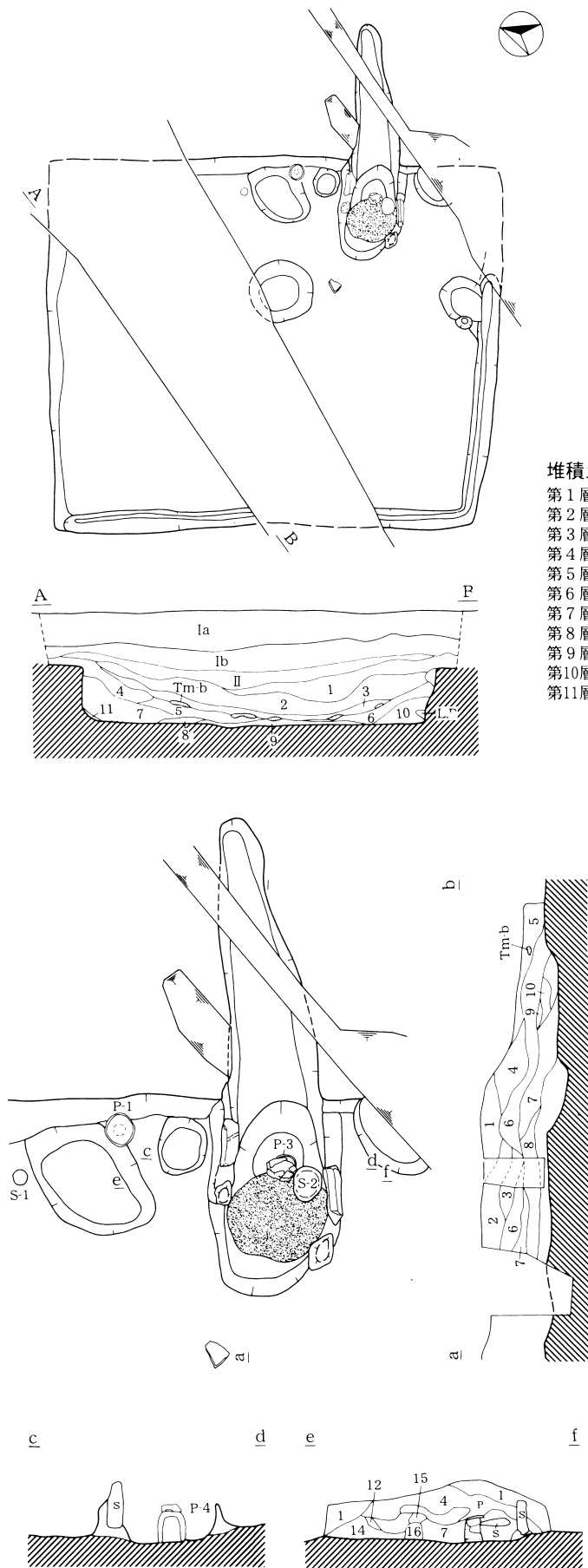
2 出土遺物（図5）

19トレンチそばの畑地から弥生時代後期と思われる土器片2点（1・2）、17トレンチから縄文時代の無文の土器片1点、36・44・45トレンチから土師器（甕）の小破片3点、46トレンチそばの畑地から土師器（甕）の破片5点と縄文時代の剥片1点を採集した。



番号	出土地	器形	部位	文様・調整	備考
1	19トレンチそばの畑地	深鉢	口縁部	付加条(二本巻き) RL+0。3条の沈線文	弥生時代後半。胎土に細砂少量。器厚4mm。
2	同上	鉢	胴部	縄文(RL)	〃
3	46トレンチ	甕	底部	ケズリ	平安時代。土師器。

図5 平野遺跡出土遺物



堆積土注記

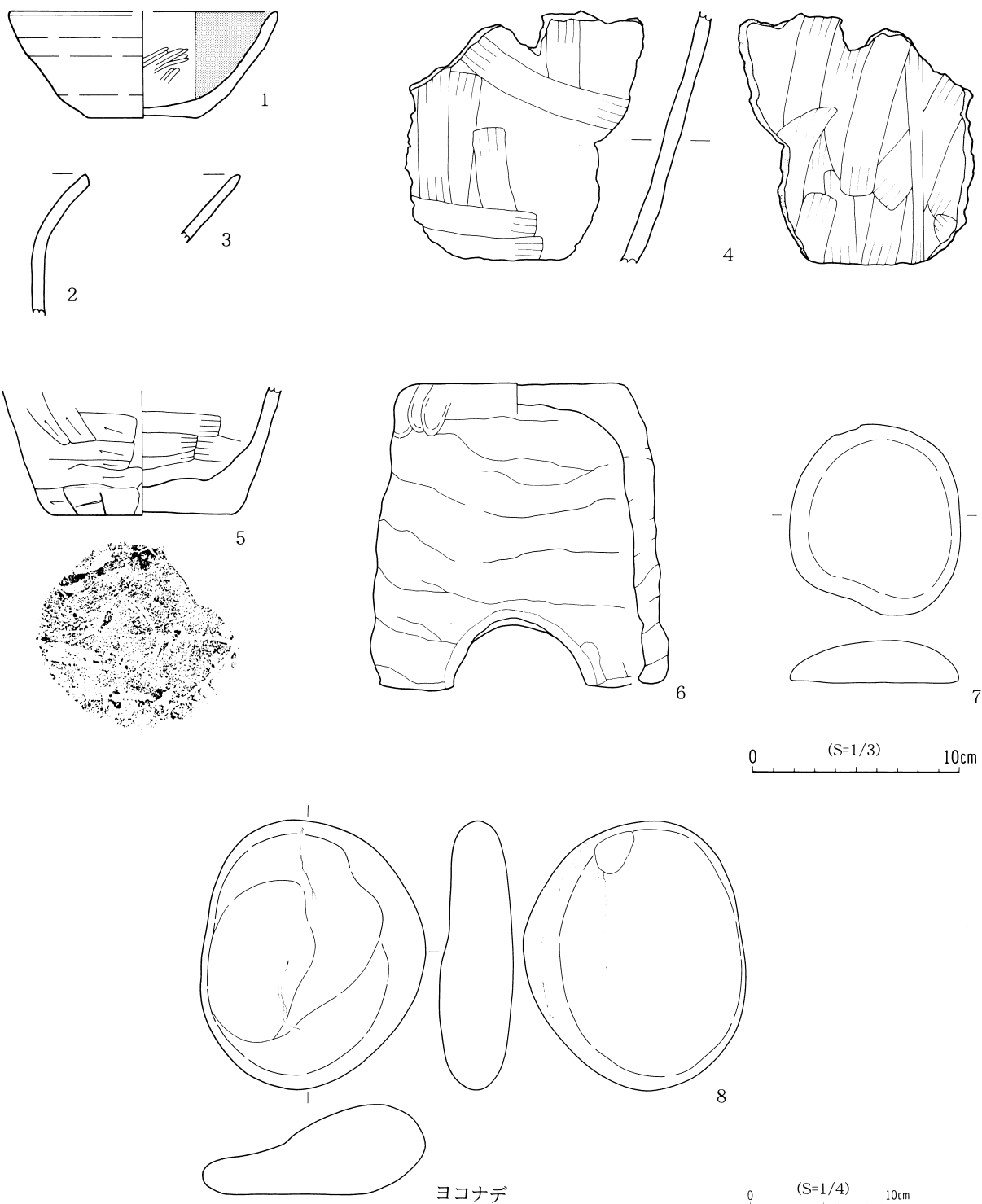
第1層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第3層	黒褐色土	10YR2/3	白頭山火山灰混じり。ローム粒・微量。
第4層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物粒微量、ローム粒少量。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物粒少量。
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量、炭化物粒少量。
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第8層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量。
第9層	褐色土	10YR4/4	L.B混入。
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。

カマド堆積土注記

第1層	黒色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土微量。
第2層	黒色土	10YR2/2	L.B・ローム粒中量。 焼土多量。
第3層	暗褐色土	5 YR3/6	(天井部?)
第4層	黒褐色土	10YR2/3	L.B・ローム粒中量。
第5層	黒褐色土	10YR2/2	白頭山火山灰混入。
第6層	黒色土	10YR2/2	ローム粒多量。
第7層	暗赤色土	5 YR3/6	
第8層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土混入。
第9層	暗褐色土	10YR3/3	
第10層	褐色土	10YR4/6	天井部。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	焼土微量。
第12層	褐色土	10YR4/6	天井部。
第13層	黒褐色土	10YR2/2	白頭山火山灰混入。 ローム粒少量。
第14層	暗褐色土	10YR3/4	焼土微量。
第15層	褐色土	10YR4/4	天井部。
第16層	黄褐色土	10YR5/6	粘土質。袖。

0 1m

図6 第1号住居跡

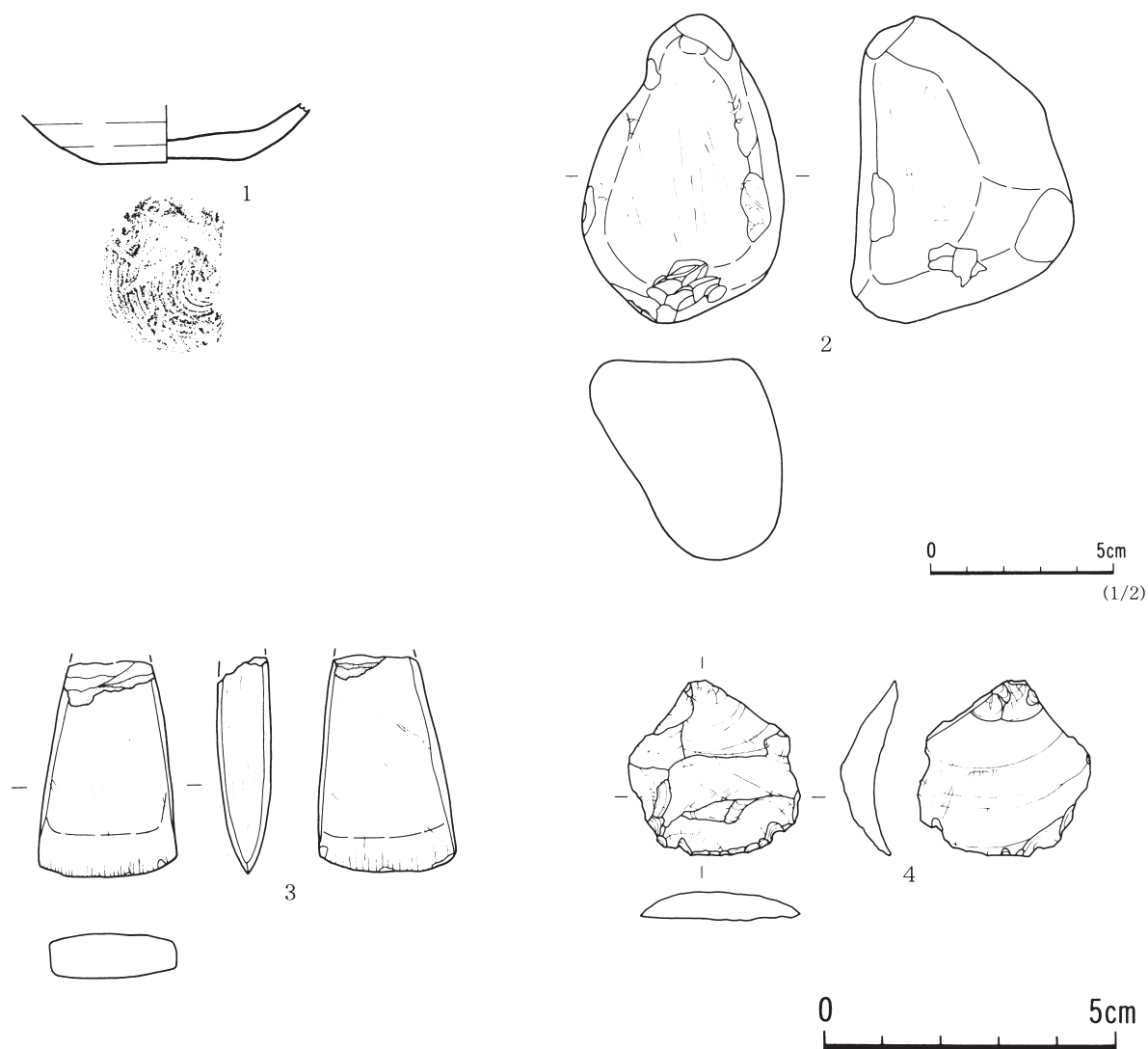


番号	出土地	器形	部位	調 整	備 考			
1	1H床面	土師器坏	完形	外面ロクロ、内面ヘラミガキ・黒色処理	P-1。			
2	1Hピット2	土師器甕	口縁部	ヨコナデ				
3	1Hピット3	土師器坏	口縁部	ロクロ				
4	1Hカマド	土師器甕	胴部	内外面ヘラナデ	P-3。			
5	1Hカマド	土師器甕	底部	外面ケズリ、内面ヘラナデ、底部木葉痕	P-4。			
6	1Hカマド	支脚	完形		P-4。			
番号	出土地	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	石質	備 考
7	1H床面	不明	9.1	8.3	2.1	192.2	頁岩	S-1。全体に滑らか。
8	1Hカマド	不明	18.4	5.1	6.1	2,000	安山岩	S-2。全体に滑らか。被熱。

図7 第1号住居跡出土遺物

第3章 今須(4)遺跡

今回の調査では、遺構は検出されなかったため、出土遺物について記載する。54トレンチから小型の磨製石斧1点、55トレンチから黒曜石のR-フレイク1点、64トレンチから平安時代の須恵器の甕の破片1点が出土し、調査区西端の74・75トレンチ南側の畑地から平安時代の土師器の甕の破片2点、砥石1点、縄文時代の剥片1点を採集した。



番号	出土地	器形	部位	調整	備考			
1	75トレンチそばの畑地	土師器、甕	底部	ロクロ、回転糸切り				
番号	出土地	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	石質	備考
2	75トレンチそばの畑地	砥石	84	55	53	247.9	凝灰岩	
3	55トレンチ	R-フレイク	30	29	7	4.9	黒曜石	末端に微細剥離。
4	54トレンチ	小型磨製石斧	(36)	24	9	15.0	粘板岩	基部破損

図8 今須(4)遺跡出土遺物

第4章 まとめ

- 1 平野遺跡の調査では、遺構の検出は平安時代の竪穴住居跡1軒のみであり、遺物は縄文時代・弥生時代・平安時代のものが数点出土したにすぎない。
- 2 今須(4)遺跡の調査では、設定トレンチ内からの遺構の検出はなく、遺物は縄文時代・平安時代のものが数点採集できた。
- 3 今回の試掘調査では、両遺跡とも遺構・遺物の発見はきわめて少ないこと、平野遺跡で検出した住居跡については、期間内に調査を終了できたことから、農道拡幅を予定している調査対象区域の本発掘調査は不要であると判断された。
- 4 平野遺跡と今須(4)遺跡は、地形的には平坦な台地上にあり、両遺跡の境界は明確ではない。今回の調査で、平野遺跡の西端に近い場所から竪穴住居跡を検出し、周辺からも土師器の出土がやや目立っている。このことから、平野遺跡から今須(4)遺跡の一部(東側)を含んだ台地一帯に平安時代の集落が存在している可能性が考えられる。
- 5 青森県遺跡台帳の記載によれば、平野遺跡は縄文時代(後期・晩期)・弥生時代・平安時代、今須(4)遺跡は縄文時代(前期・後期)・平安時代の遺跡であるとされている。今回の調査は、農道部分という限られた区域の調査であったため、遺跡台帳の記載を確認することが出来なかった。



平野遺跡作業風景



今須(4)遺跡作業風景



今須(4)遺跡基本層序

写真1 作業風景、基本層序



第1号住居跡層序



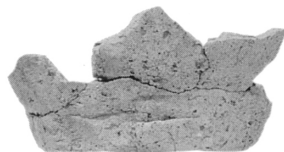
第1号住居跡完掘（東側）



第1号住居跡かまど



(図7-1)



(図7-5)



(図7-6)

写真2 平野遺跡第1号住居跡と出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひらの・います いせき							
書名	平野・今須(4)遺跡							
副書名	県営中山間整備事業に係る試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第231集							
著者氏名	畠山 昇							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 0177-88-5701							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらの 平野遺跡	あおもりけんにしつがるくん 青森県西津軽郡 あしがさわまち 鱒ヶ沢町 おおあざきたうきたち 大字北浮田町 あざひらの 字平野91-7～15	321	15039	40° 47′ 10″	140° 16′ 0″	19960916 ～	581㎡	県営中山間 整備事業に 係る試掘調 査
います 今須(4)遺跡	あおもりけんにしつがるくん 青森県西津軽郡 あしがさわまち 鱒ヶ沢町 おおあざきたうきたち 大字北浮田町 あざいます 字今須100、外	321	15038	40° 47′ 10″	140° 15′ 40″	19961025	192㎡	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平野遺跡	集落跡	弥生時代 平安時代	住居跡1軒	縄文時代の土器・石器 弥生土器、土師器				
今須(4)遺跡	—	平安時代	—	縄文時代の磨製石斧、 土師器、支脚				

青森県埋蔵文化財調査報告書第231集

平野遺跡

今須(4)遺跡

—県営中山間整備事業に係る試掘調査報告—

発行年月日 1998年3月31日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15

TEL0177-88-5701

印刷所 (株)三栄企画印刷